

★ まちづくり ニュース



ホームページ

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Icho/3732/>

204号

2018年9月27日



常盤台の景観を守る会
常盤台まちづくり委員会

事務局 島田晴子 tel・fax 3960 - 3869

— 都心低空飛行問題について —

○ 各自治体の責任は？

都内各区の議会には、それぞれの区民から、国交省に見直し撤回や意見書の提出を求めて誓願や陳情が出されています。

板橋区では区民環境委員会と都市建設委員会に陳情が出され、8月28日と30日に審議がありました。結局は継続審議となっています。事の重大さはそろそろ認識されても良いと思いますが、まだ条件次第でという鈍感な議論が多いのは残念です。区独自の立場で対処すべきです。

新航路直下で被害の大きい品川区長選が30日にあり注目されています。

* またもや安全神話

「原発は安全」と言われた根拠無き神話がまた作られようとしています。国交省は盛んに落下物対策として、各航空会社に整備の徹底を呼びかけるから安全だと宣伝します。誰が保証し、責任を取る約束でしょうか。羽田空港でさえ人手不足の折り、大幅な整備の緩和が行われているのに、世界中から飛んでくる飛行機の整備に安全の保障など誰ができるのでしょうか。

* 経済優先か人権優先か

人権とか人間性の尊重という点で、世界の先進国とはとても言えない日本です。水俣病や第二次大戦の経過などでも解るように、なかなか非を認めない結果、悲惨な状況を作り出してきた日本人の欠点がまたぞろ現われてきたのです。こんな人口密集地の上を滑走路進入に使うなんて、どんな感覚の人達なのか、恐ろしくなります。

* 想像力の欠如

板橋区では常盤台の真上を通るとはいえ1200mの高さです。だからといって我々がOKしたら、他の都民の災厄に加担する事になるのです。

○ 「お散歩マップ」改訂版

2003年に作った「お散歩マップ」は、いたやさとしさんのイラスト入りで、簡便な常盤台の道案内として好評でした。駅の「武蔵常盤小径」にも掲示されています。

いたやさんは当時ボローニャ絵本展で受賞、今も絵本作家として活躍中です。

しかし、15年も前の内容だったので、改訂版を発行する必要が出てきました。

先日いたやさんに常盤台の街を見て貰いました。出来上がった前回同様、各戸配布する予定です。費用は裁判費用の残金を使わせていただくのと、紹介するお店からの広告料とでまかないます。

常盤台は都市計画上独特なまちとして、研究者などが訪れることがあり、その人達や、近辺からのぶらりと散歩に来る人達にもこの「お散歩マップ」は役立っています。

○ 「200号記念誌」発行

2003年から2018年までに配布された「まちづくりニュース」を一冊にして、年内に発行する予定です。

A4版を半分に縮刷し、読みやすいよう1枚ずつではなく見開きにする予定。半分の大きさにするのは、本立てに入れやすく、へたらないからですが、元々12ポを使っているの、読み取りづらいことは無いと思います。

こちらは全国景観市民ネットから半額を負担して頂けることになりました。残りは裁判費用の残金から出費しますが、皆さんからの寄付金をなるべく減らさないよう、一冊1000円で申し受けたと思います。入手方法などは後日お知らせいたしますのでよろしくお願い致します。

常盤台の野良猫について

「野良猫に餌をやると猫が増えて困る」と言う人、多いですよ。しかし、「野良猫を減らすため」に餌をやることがあることを知ってください。第一、餌をやらなくても、どんなに飢えていても母猫は子猫を生みまします。子猫は成長すると、さらに子猫を生みまします。

今、野良猫対策で最善と考えられているのがTRPです。TRAP（捕獲する）NEUTER（不妊手術をする）RETURN（元の場所に戻す）の意味です。不妊手術をすれば、その猫は一代限りで増えません。手術した印に猫の耳にV字型の切込みが入れてあります。

用心深い野良猫を捕獲するには、同じ場所・同じ時間に根気よく餌をやって、警戒心が緩んだ頃にやっと捕獲箱をしかけまします。不妊手術をして元の場所に戻した猫にも、ごみを荒らしたりしないよう最低限度の餌やりを続けます。飼い猫の平均寿命が十五年に対して、野良猫は三〜五年。その短い一生を地域で見守りながら、徐々に数が減るのを待つのがTRPのやり方なのです。「野良猫が増加中」と心配された常盤台一丁目の野良猫は八月に一六匹（オス六匹、メス十匹）を捕獲・不妊手術をして、元の場所に戻しました。まだ何匹か用心深い母猫と手術には小さすぎた子猫がいるので、引き続き捕獲の努力をする予定です。

元々は飼い猫が無責任に捨てられたのが野良猫です。常盤台でも猫も穏やかに暮らせるといいですね。

N・Y

野良猫について

「まちづくりニュース」三六号でもこの問題を取り上げたことがあります。二〇〇四年十一月のものなので、思い出せない人が多いと思いますが、区や都の対応をレポートしています。

前号にまたまた困っている人の話が載るや、Nさんから早速電話を頂き、そこから様々な人達に繋がっていききました。練馬区・文京区・北区・板橋区と、広範囲な所で、地味な活動を根気強く続けている人達の存在を知りました。

彼らは、自腹を切ってネコの不妊手術代を払っているだけでなく、その後のたゆみない餌やりや、引き取り手のいない障害ネコの飼い主になるなど、頭の下がる活動を黙々としています。

せめて高額の出費の時には寄付を募ってはどうか。景観を守る会もニュースでお知らせするぐらいの手伝いはできると思います。

今回は永年この運動に携わっているYさんに寄稿してもらいました。

豪雨など天災増加

「一八日一六・一〇板橋(仲宿一〇番)の十分雨量が二九・五mmになりました。」というお知らせがありました。その日は一日中、豪雨と雷で大変でした。ハザードマップでは常盤台は大丈夫でしょうか？火災の場合は？地震では？

中でも心配なのは町中に張り巡らされている電線と、まるで列柱のように聳え立っている電柱です。最近の強風では頑丈そうな電柱も根元から折れていました。いざという時、救急車も消防車も避難しようにも、車は全く動けないでしょう。

常盤台公園のはなづくり

常盤台産のマーマレードは、今年は少なめに作ったせいか、九月半ばで売り切れてしまいました。来年も作る予定ですので、よろしくお願いいたします。(ギャラリー服部)の受付には少し残っています)

はなづくりの会の最年長のTさんが脳溢血で倒れてしまいました。九十歳を越えてのボランティア活動で、お元気とはいえこの酷暑が心配ではありました。朝の体操に見えなかつたので、ご近所の方が自宅を見に行つて発見されたそうです。さいわい発見が早かつたので、少し言葉が思うようにならないと、ご本人が思われているぐらいで回復なさいました。しかし元のような活動は無理になりました。あちこちの公園での花づくりの会も、同じように存続の危機に陥っていると耳にします。

秋の球根と苗の植え付けは、例年通り予定していますが、その後はどうなるか今の時点ではわかりません。

現在さかんなボランティア活動も、高齢化の波に逆らうことはできませんが、後継者たる若者は「社畜」(会社に家畜や奴隷のように酷使されている)となつて疲れ果てています。睡眠時間以外の三分の一は仕事に、三分の一は自分自身に、三分の一は社会に、というのが理想の生き方と言いますが、現状がほど遠いのは情けないではありませんか。